

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200996		
法人名	特定非営利活動法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームさやか		
所在地	神戸市西区和井取3番12号		
自己評価作成日	平成28年5月25日	評価結果市町村受理日	2016年 7月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2016年 6月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

タイムスケジュール的なものを作らずご利用者が自由に生活できる環境を作っている。ご利用者がのぞまれたことをできるだけその場で提供できるようにしている。外に出さないということはせず不自由な面も関わりながらご利用者が地域で生活して頂けるようにしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、認知症を患っても地域の中で自分らしくあたりまえに暮らしている。日常的な散歩や買物に、時には一人で出かけ、住民や店と顔馴染みとなり、ここでの関係性を築いている。普段の家事にも勤しみ、朝食も自分で用意したり、個々のペースで食べたい物を食べるなど、自分の暮らしを実践している。そんな利用者の表情は明るく、我が家の如く活き活きとすごしており、職員も一人の高齢者として自然体で温かく見守っている。認知症高齢者である前に一人の人としての普通の生活の実現、そのための環境整備を重視し、その中で安心安全な生活を送れるよう、職員は日々研鑽に努めている。この先、重度化による状態悪化は避けられないと思われるが、利用者がここでの生活を全うできる終の住処としてのさらなる飛躍を、期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、ご利用者が主体となるようタイムスケジュールを作らず、思いを尊重し個別の対応を行っている。対応等困った時は申し送りや会議で検討し合っている。	法人理念をもとに、利用者一人ひとりの生活リズムに添って職員は実践している。会議等の際に、理念に基づき話し合い、検討を重ね日々取り組んでいる。利用者の意思や思いを優先した主体性重視のケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物など日常的に出掛けている。毎月1回の独自の地域清掃を実施し近隣の方と顔見知りとなり身近なものとして感じて頂く。保育所とも交流の場を設け中学校のトライやるウィークにも継続して受け入れている。	自治会はないが、民生委員の協力で地域情報の収集ができています。利用者が外出時に道に迷い、近隣商店の協力を得たこともある。利用者一人ひとりの暮らし方を通じて、少しずつ事業所の地域交流の広がりや認知症の理解にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し地域との理解を深めている。さやかを資源としての働きかけは出来ておらず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しあんしんすこやかセンター・民生委員・ご家族・ご利用者・職員の参加でご利用者のご様子、事業所のご様子など報告し地域の情報も得られるよう意見交換を行っている。	事業所からは、行事を通じた利用者の様子や事故報告、その改善策について報告している。家族からは、もう少し体操などで体を動かしてほしいと要望があり、職員間で話し合い反映した。各立場からの積極的な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護ご利用者に対してケースワーカーと連絡を取り合い連携が取れるよう取り組んでいる。	生活保護担当者とは、利用者個々の連絡、相談を行っている。電話以外にも事業所から出向き、情報交換するなど協力関係を築くよう努めている。グループホーム連絡会では、事業所間での問題点を出し合い意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時又定期的に研修を行い玄関も施錠せず日常の関わりの中で職員と連携し拘束をしないケアに取り組んでいる。	新人研修での必須項目とし、日中、玄関は開錠している。利用者は行きたい時に外出するなど、自由に出入りしている。職員は、利用者一人ひとりの行動を十分把握し、万が一道に迷った場合等、普段から近隣との協力関係を築いている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時又定期的に研修を行い職員に意識の徹底を努めている。	毎年、定期研修を行っている。日常的に職員同士気づいた事を注意し合うなど、言葉かけや対応について意識統一を図っている。管理者は、職員と個別に意見や話を聞く機会を設け、職員のストレスチェックに努める等、職場環境にも配慮している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に研修はおこなっていないが必要に応じて家族様等活用できるように説明し利用者に関わりを持つ中で知識を得ていた。現在利用されている方はいない。	現在、お金の管理の必要な利用者がおり、市担当者と連携を図っている。制度内容等についての職員の周知は十分ではないが、今後必要に応じて勉強会を行い、家族へも情報提供していきたいと事業所は考えている。	折を見て、専門機関の協力を得るなどして、学ぶ機会を設けられてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居のご案内をし希望があれば見学・体験も実施している。契約時時間を掛け説明し理解と納得を得ている。	見学、又は体験後に、十分理解してもらえるよう丁寧に説明している。特に法人理念についての理解を徹底し、そのうえで利用料金や重度化した場合の対応、家族の不安等について説明している。安心して納得のいく利用としている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に不満な点などをお聞きし日々でもご利用者にも伺っている。又家族様に合わせてFAX・メール・電話などで日々の連絡や報告をさせて頂いている。	運営推進会議に不参加の家族にも議事録を送付し、意見を募っている。家族来訪時、または電話で報告した折に、意見や意向を聞き取っている。利用者の現金管理が困難になり、家族と相談のうえ事業所管理となった事例がある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議や全体会議など発言や提案しやすい場を設け日々の関わりに反映させている。	職員からの意見や提案を聞くための法人独自の多様なツールを活かし、積極的に広く職員からの意見等を収集し改善に活かしている。業務体制の見直しや新たな新企画等、これまでも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族状況等勤務時間帯を考慮したり各自が目標を持ちやすくやりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対して新人研修を実施している。事業所内外の研修を受け各々の能力向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の居宅支援事業者と連携し交流している。		

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話掛けご利用者の思いを傾聴し受容の姿勢を持ってニーズに応えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況や意見を把握し希望に沿ったサービスができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要としている支援を確認し可能なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本位の考えでご利用者の敬意の念と教えて頂くという謙虚な気持ちで関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換を通じご利用者を共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の思いをふまえ馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	理美容や買物等、普段から馴染みの店に行くことで、近隣との関係性を築いている。携帯電話で友人等とやりとりしたり、はがきの交換を通じ、友人、知人との交流を継続している人もいる。ここでの新たな馴染の関係、さらなる広がりを築くよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気の合った方同士で会話したり関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節の挨拶等を郵送させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族に希望や意向を伺い困難な場合は表情や仕草で読み取りご利用者の意思に沿う事ができるよう努めている。	利用者の日々の変化や様子から思いを受け留めるようにしている。家族等からも以前の生活の様子や嗜好を聞き、全職員で周知している。コミュニケーションを重視し、利用者との個別の時間を大事にすることで、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントを行い情報収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録、申し送り表などを活用し現状を把握できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪時や近況報告等で伺った内容等をサービスやん当社会議の用紙に記入し、2ヶ月に1回のケース会議でのモニタリングによってご利用者個々に沿った介護計画を作成している。	利用者個々の日々の記録と介護計画が連動され、わかりやすい。その結果、利用者個々の具体的、かつ趣きのある介護計画となっている。2カ月に1回のモニタリングにより、家族、主治医や薬剤師からの意見を反映させ、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や申し送り表に記入し職員間で共有し対応や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス概念に捉われない方法を必要に応じて取り入れている。		

自己	者三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育所や中学校との交流行事又はスーパー、病院などを活用し地域資源との協働を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員の方が協力医を希望され2週間に1回の往診を受けられている。	利用者及び家族の希望で、協力医の往診を2週間に1度受けている。往診前に身体状況を把握し、主治医報告を行っている。結果については往診表に記載して、職員間で情報を共有している。家族にも報告している。希望者は、週1回往診で口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回協力医の看護師による往診を受けられている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院の際職員が自発的にお見舞いに伺いご利用者の不安感を軽減に努め特定の病院にしぼり病院と連絡を取り連携を強めている。	協力医と入院機関との連携は良好で、受け入れに困った事はない。入院時毎日お見舞いに行き、日々の状況確認と病院関係者から情報収集を行っている。急性期の治療が終われば、事業所側の受け入れ体制を整備し早期退院に繋げている。だいたい1ヶ月以内に退院できている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所でできること、できないことを説明している。終末期の対応はご利用者ご家族様の意向を確認し全職員で検討し共有し支援に取り組んでいる。	事業所内で看取りの経験はないが、今後は取り組む姿勢である。現在1名の希望者がおり、ターミナルの勉強会や他事業者の情報を参考に検討を重ねている。協力医は24時間対応可能で、家族だけではなく職員の安心にも繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習や保健所の講習を受講している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	西区消防署立会いのもとで定期的に避難訓練を実施しているが地域との協力体制を築くのは課題である。	今年度は1回のみで、夜間想定訓練まで至っていない。職員は実施後、気づきや反省点を報告書に記入して、振り返りの場としている。外部研修に参加して、7月伝達講習を予定している。民生委員に声かけしているが、地域住民の参加は得られていない。	夜間想定のもと早急に訓練の実施をお願いしたい。自治会がないので、民生委員の見学や保育所との交流をきっかけに、住民参加につなげてはいかかが。

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し法人理念に基づき個別ケアの対応をしている。	入職時理念について学び、個々のケアに反映される同行研修を行い、尊厳やプライバシーについて職員間で周知徹底している。重度化しても、人生の先輩として尊敬の念をもって、行動を見守り、声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者本位の立場で自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定を設定せずご利用者が各自のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が好きな衣類を一緒に買いに出かけたり行きつけの美容院へ同行したりしている。施設でも毎月の理容サービスを提供している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日その時に食事メニューを決めご利用者と一緒に調理したり片付けをしたりしている。希望があれば外食や仕出し等も活用している。	週1回食材が配達されるが、好みの物を聞き、一緒に買い物に行くこともある。自室で食事をする人や、朝食のサラダは自分で作るなど、利用者の意向を尊重しながら、見守っている。職員と一緒に会話を楽しみながら、調理や食事、片づけも行い賑やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の希望を優先しつつ栄養バランスを考えた食事を提供している。水分量は記録し少ない方は状態を観て声掛けし飲み物・水分を多く含むものなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状況に合わせた口腔ケアを実施している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者毎の排泄パターンを把握し個別の対応を心掛け声掛けを行っているが自立に向けての支援もおこなっている。	個別のチェック表で、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ排泄を基本として支援を行っている。夜間パジャマ姿を見られたくないという理由から、ポータブルトイレを利用する人もいる。トイレの認識が困難な利用者に、パットの選択を工夫するなど尊厳が守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為繊維質の多い物や乳製品を提供し入浴又可能な範囲で身体を動かして頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	昼夜を問わず時間や回数を決めず希望の時間に入浴が可能なように対応している。	利用者の要望に応じて入浴が可能である。毎日入浴する人や、夜間入浴する人もいる。入浴を1週間以上拒否する利用者もあり、声かけのタイミングや対応に苦心している。家族の希望と衛生面も考え、職員間で検討を重ねている。	感染症や皮膚疾患も予測されるので、利用者の尊厳を守る視点からも、皮膚の清潔維持の検討をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者ごとの生活習慣に沿った休息や睡眠の場を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用に関して職員が理解し常に服薬に関しての情報を職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人の生活歴に合わせた楽しみ事や気分転換の場を職員が提供している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出外食等の支援を実施している。	利用者の希望に応じて、お祭りや名所、球場などに外出支援を行っている。また散歩やコンビニ、スーパーなどに外出しており、利用者の笑顔を引き出している。事業所に帰れないときは、店より連絡が入り、日常的に連携が出来ている。	

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対して理解されているご利用者の方にはご自分で管理して頂いている。又、預り金としてお預りし思う時に使える様にも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば希望される連絡先へ電話や手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や鉢物を飾り季節感を取り入れ、利用者の方のニーズに合わせたテーブル設置をしている。又、動物を飼う事でもご利用者の癒しとなっている。	テーブルなど至る所に花や植物が置かれ、趣のある空間となっている。事業所で猫を飼い、餌やりを楽しんでいる。階段やリビングの壁面には、額に入った利用者の写真が掲示され、四季折々の表情を通じて、1年間の生活の様子が伺い知れる。それを見ながら利用者や家族の会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファをランダムに配置しご利用者がその時の気分に合わせ使用して頂けるよう工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や服を持って来て頂き、自宅で過ごされている時と同じような環境に近づけられるよう努めている。	利用者は、家具や仏壇、ピアノ、楽器、冷蔵庫など馴染の物を生かし、その人らしく楽しく過ごせるように支援している。猫を飼っている利用者もあり、それぞれが個性的で落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造にてご利用者の動線を確保し安全かつ自由に移動できる環境作りをしている。		